

令和元年度 第1回江別市社会教育委員の会議 会議録

1 開催日時

令和元年8月6日(火) 15時00分～16時30分

江別市教育庁舎 大会議室

2 出席者

○社会教育委員 8名

高木玲子委員、佐藤レイ子委員、伊藤穎毅委員、石川奈穂江委員、辻麻紀委員、
藤田昌之委員、加藤隆明委員、木島恒道委員

(欠席：井上大樹委員、神保順子委員)

○傍聴者 1名

○教育委員会 萬教育部長、伊藤教育部次長、

生涯学習課 天野課長、鈴木生涯学習係長、布施青少年係長、

スポーツ課 三浦課長

情報図書館 山本館長

郷土資料館 櫛田館長

(欠席：兼平参事、橋本主査、横山主事)

3 開催結果

(1) 開 会

(2) 教育部長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 議題1 令和元年度 社会教育関係事業に係る補正予算について

(資料に基づき、スポーツ課長・情報図書館長から説明)

(質疑等)

<質問>

体育館の改修については、金額的にも大規模な改修と思われるが、当初予算で計上しなかったのはなぜか。

<事務局>

当該改修工事を実施するにあたり、スポーツ振興くじ助成金を申請しており、申請結果が出るのが平成31年4月だったため、6月補正予算での計上となった。

<質問>

関連して、体育施設の耐震化工事は終わっているのだろうか。

<事務局>

青年センター以外は耐震化されている。

<質問>

情報図書館の経費については、貸出・返却業務に係る人件費の計上という認識でよろしいか。

<事務局>

人件費ではなく、貸出・返却の業務や電算システムの改修委託、書棚等の備品購入に係る費用を計上している。

議題2 平成30年度江別市社会教育総合計画（第8期）推進状況報告書について
（生涯学習係長から説明）

- 現在の第8期江別市社会教育総合計画は、平成26年度から平成30年度を計画期間として策定したものである。
- 本計画では、各施策の実施状況や達成状況、効果や課題についてPDCAサイクルの考え方に基づいて、点検・評価を行い、計画に反映させていくとしており、成果指標の平成30年度における結果について報告する。
- 資料1ページ

資料中の数値については、回数や人数については担当部署からの報告により、割合（％）については企画政策部で実施している市民アンケートや、教育研究所（教育委員会所管）で児童・生徒向けに実施しているアンケートにより、算出している。はじめに、「基本目標Ⅰ地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」であるが、1家庭の教育力の向上では、成果指標1-①は減少、1-②増加している。

1-①の主な要因については、胆振東部地震による減小である。

1-②の主な要因については、子育て支援センターの相談件数・事業参加者、ぽこあぼこなどの利用者数が指標となっており、ぽこあぼこの利用者数増が影響している。

2地域の教育力の向上では、成果指標2-①は0.5%増加している。

3子どもの可能性を引き出す教育の実践では、成果指標3-①は減少、3-②は増加している。

なお、3-①については、26・27年度は調査がなかったため、空白としている。

○資料 2 ページ

4 子どもを取り巻く安全安心な環境づくりでは、成果指標 4-①は昨年度と比べて増加、4-②は横ばいとなっている。

○前年度の取組内容・今後の方向性であるが、成果指標 3-①については数値が減少しており、それ以外の項目については、増加もしくは横ばいの結果となっている。また、現状値 (H24 年度) と比較しても同様の傾向となっており、基本目標 I については、計画期間の 5 年間で概ね目標を達成しているといえる。

○成果指標 3-①については、引き続き第 9 期社会教育総合計画においても成果指標としており、育成団体等に対する補助金交付のほか、地域の人材を活かした体験活動事業などの取組を実施していく。

○学校や社会教育施設は地域学習の拠点であり、今後とも地域全体で子どもを育てていく環境を充実させるため、交流を図る場を提供し、各種団体活動の活性化に努めていくとしている。

(ここままで質疑等の確認)

< 質問 >

1 頁 3-①目標値というのはどこと比べての目標であるのか。

< 事務局 >

表の左側の数値である H24 年度の現状値と比較している。従って 3-①については目標を達成することができなかった。

< 質問 >

3-①については、児童数自体減っていると思われるので、特段問題はないのではないかと。

< 事務局 >

3-①は、教育研究所が実施している児童・生徒への意識調査から抜粋した数値であるが、任意抽出した特定の学年の児童・生徒が、ボランティア活動や体験活動に参加している割合を計上しているものなので、分母の減少分よりも割合が重視されている項目である。

<質問>

全体の中での人数の増減ではなく、児童・生徒が答えた割合で目標の達成度を判断していることということでよいか。

<事務局>

実際に参加している事業を洗い出したわけでもなく、意識調査なので、細かい分析が難しいところはある。ただ、H28からは数値は下がってきているという結果なので、引き続き先程申し上げたような取組を継続していく必要があると感じている。

○資料3ページ

まずは3ページで訂正があるので先にお伝えさせていただきたい。

3ページ中段、成果指標2-① 公民館等使用料の減免対象となる社会教育関係団体登録数(団体)について、H30年度の数値が「197」となっているが、「194」に訂正いただきたい。H30年度中に新規登録となった団体が「4」、登録解除となった団体が「3」あり、差し引きプラス1団体でH30年度は「194」となる。

では、「基本目標Ⅱ生きがいを見出すことのできる生涯学習の推進」であるが、1生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりでは、成果指標1-①、1-②、1-③、いずれも昨年度と比べ、減少している。

○2 市民が行う生涯学習活動への支援では、成果指標2-①は昨年度と比べ、増加している。

○3 協働・連携による生涯学習の推進では、成果指標3-①については昨年と比べて増加、3-②は減少している。

○前年度の取組内容・今後の方向性については、修繕計画に基づいた公民館の工事や、公民館使用料減免等の活動団体への支援、市民カレッジの開催による学習機会の提供等を実施してきた。現状値(H24年度)と比較すると、成果指標3-①のみ数値が増加しており、その他5つの項目については目標達成とはならなかったが、生涯学習の機会・施設・情報が充実していると思う市民割合については、第9期社会教育総合計画においても成果指標としており、限られた予算の中で可能な限り生涯学習の機会を確保し、積極的な情報提供に努めていくとしている。

○資料の4ページ

「基本目標Ⅲ地域で育まれた多様な郷土文化の再発見と創造」であるが、1市民の文化・芸術活動への支援では、成果指標1-①は昨年度と比較し、微増している。

- 2 文化施設の活用促進では、成果指標 2-①は昨年度と比較し、微増している。
- 3 文化遺産の保存と活用では、成果指標 3-①についてはほぼ横ばい、3-②は減少している。
- 3-①については、郷土資料館の見学学習や体験学習の回数を計上している。
- 4 芸術活動の推進では、成果指標 4-①は昨年度と比較し、増加している。
- 指標については、公民館ギャラリー・えぼあホール・市民会館大ホールの利用者数・セラミックアートセンターの企画展の利用者数を人口で割った比率を算出しており、えぼあホールの利用者数とセラミック企画展の利用者数が増加したため、数値が上昇している。
- 前年度の取組内容・今後の方向性であるが、東京国立近代美術館工芸館名品展、まちかどコンサートの開催等、市民に質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や発表の場を提供するとともに、活動団体の安定的な運営への支援を行った。
- 現状値(H24年度)と比較すると、成果指標 1-①・3-②は減少、3-①・4-①は増加となっている。
- このうち成果指標 3-②については、第9期社会教育総合計画においても成果指標としており、文化財や歴史遺産をより身近な市民共有の財産として知っていただくため、効果的な情報提供を継続して行っていく必要があるとしている。

<質問>

取組内容の中で「えべつ市民カレッジ」が出てきたが、各大学と調整し、多くの講座を連携することで、様々な学習ニーズに応えることができていると思う。年間で何人くらいの参加者が参加しているのか。わかれば教えてほしい。

<事務局>

市民カレッジ全体の総参加者数については、講座数も多く大学側の負担になるという事情もあり、把握できていない。市民カレッジ自体の成果を評価する指標としては、「市民カレッジの登録者数」と「連携している講座数」という数値があり、平成30年度末の数字でお伝えすると、登録者数は660人ほど、連携している講座は191の講座がある。

<意見等>

社会教育・生涯学習活動の観点からも、市民のうちどれくらいの人数が参加しているかは知りたいところ。やはり参加者総数のチェックは必要だと思う。

また、市で開催している講座で市民カレッジの連携講座もある。意識して確認するようにはしているが、PRは重要だと思うし、やはり身近な人からの声掛けが1番効果があるように感じる。みなさんもぜひ友人・知人の方々に声掛けしていただければと思う。そこから市民カレッジのサポーターのような人材が育成できればいい。

議題3 使用料・手数料の見直しについて

(生涯学習係長から資料「使用料・手数料の見直しについて」に基づき説明)

- 市の使用料・手数料に関しては、受益と負担の公平性を確保しながら、公共施設の運営改善と行政サービスの改善を目指すため、原則として4年ごとに見直し作業を実施している。
- 使用料の算定については、かなり簡略化してはいるが概ね記載のとおり。会議室等の部屋に1日あたりどのくらいの費用がかかっているかを計算し、負担割合をかけて使用料を算出する。
- 今後のスケジュールについても記載のとおりであるが、あくまで予定であり、変更になる場合もあるのでご了承いただきたい。10月に社会教育委員の会議に報告という記載があるが、公民館等の使用料に大幅な変更があった場合は、会議を開催して報告等を行いたいと思う。特段大きな変更等がなければ、勉強会での報告か書面での通知を考えている。
- 現状では、4年に1度の見直し時期であるということと、現在は財政部局で算定中ということしかお伝えできないが、消費税や労務単価の上昇という現状を踏まえると、使用料が上がる可能性もあるかと思う。現時点で質問やご意見等あればお伺いしたい。

(質疑等)

<質問>

公民館の稼働率は100%なのか？

<事務局>

100%ではない。野幌公民館の会議室では100%に近い部屋もある。

<質問>

この算定については、どこの施設も同じか？

<事務局>

江別市の公共施設については、基本的に同じタイミングで同じ計算方法で算定を行っている。

<質問>

使用料の算定について、市民から意見等を聞く場は設けられるのか。

<事務局>

基本的には、財政部局と理事者で積算した数値について分析し、予算や近隣市町村の状況等を考慮しながら判断していくものなので、住民説明会のような場を設ける予定は無い。

しかし、各担当部署で審議会等には報告し、各施設で寄せられている利用者の声やアンケート結果等を考慮しながら、財政部局と調整を図っていくので、現場の声を届けられるような仕組みにはなっている。そういう意味でも、現時点で社会教育委員のみなさまからも何かご意見等あればお伺いしたい。

<高木委員長>

質問・意見等ありませんか。

----- なし -----

(5) その他（生涯学習係長から説明）

① 成年年齢引き下げに伴う「成人のつどい」の実施方法の検討について

（資料に基づき、青少年係長から説明）

② 指定管理施設の更新について（江別市旧町村農場）

（資料に基づき、生涯学習係長から説明）

③ 勉強会の開催について

次回の勉強会は11月～12月の実施を予定している。少し間が空くので、時期が近づいてきたときに改めて文書で日程調整等を図る予定。

<高木委員長>

他にありませんか。

----- なし -----

(6) 閉 会

16時45分 終了